

# 健康ってAなあ新聞

責任編集  
長谷川勝士  
(はせがわ鍼灸院)

1950年生まれ・姫路市出身  
駒澤女子大学非常勤講師  
(コミュニケーション論)  
鍼灸師(全日本鍼灸学会会員)  
放送作家(日本放送作家協会会員)  
プロデューサー(町おこし・都市開発)



イラスト:  
こまいちかこ

## 国民病となった糖尿病

糖尿病と聞いても「太ってないから大丈夫」「あれは男の人のかかる病気」と思い込んでいる人が多い。しかし糖尿病ほど怖い病気はない。

厚生労働省の統計によると糖尿病有病者は1620万人と5年間で250万人も増加し、まさに国民病。

糖尿病の怖さは合併症に表れます。「三大合併症」として、網膜症、腎症、神経障害があるが、ほかに脳卒中、心筋梗塞などを起こす動脈硬化も合併します。合併症が進行すると「網膜症」(網膜は目の一番奥にある、カメラのフィルムにあたる重要な部分)による視力障害・失明、また「腎症」によるむくみ、尿毒症、さらに「神経障害」による手足のしびれ・慢性的な痛み、便秘、インポテンツなどが出現してきます。

この糖尿病に苦しめられてきた歴史上の人物に織田信長がいます。

### 糖尿病と織田信長

国民的英雄として、織田信長ほど日本人に愛されてきた人物はいないでしょう。



織田信長  
1534年、尾張生まれ。  
1582年明智光秀の謀反により本能寺で自害。

この肖像画は愛知県豊田市の長興寺に伝わる「織田信長像」の顔の部分を拡大したものだが、端正な顔立ちにやや落ち窪んだ目に憂いの色が見られます。

孤独感、メラニンカラーが漂う中で注目さ

れるのが眉間にくつきりと刻まれた「八の字」の縦ジワであり、世に「大魔王」と恐れられた信長の激情型の性格をよく現しています。

### 織田信長と糖尿病

昔は糖尿病を「飲水病」といい、信長は糖尿病の合併症である「神経障害」による手足の慢性的な痛みで悩まされていた。原因としては、遺伝的要素(父・信秀も飲水病であった)と、濃い味が特徴の尾張の食事、さらに、13歳で元服して以来、戦に明け暮れた過度のストレスがあげられる。糖尿病の合併症は、「神経障害」は約5年、「網膜症」は約7~8年、「腎症」は10年ほどで進展すると言われている。

信長は「うつけもの」を装いながら絶対的不利の合戦を次々と勝利に導いてきました。その行動を近くで観察し「プロイス日本史」に記録していたのが信長の信頼を得ていたルイス・フロイスというポルトガルの宣教師です。彼は著書の中で信長の性格や言動を次のように表しています。

「彼の睡眠時間は短く早朝に起床した。非常に性急であり、極度に戦を好み、全ての王侯を軽蔑した」

「対談の際、遅延することや、だからだらしなく話をした」

「元来、逆上しやすく、癪癪もちであった信長は激しい言葉で罵倒し、声を高め憤激し始めていった」

### 織田信長の残虐性

日常的に続く神経障害での痺れと疼痛、そこからくるイライラ、さらに生まれながらの執着気質が加わり過剰なまでの残虐性を帯びてくるのです。

1571年(万亀二年)、比叡山延暦寺を焼き討ち、僧侶三千人を焼き殺し、1

573年(天正元年)には長年の敵、浅井長政・朝倉義景を滅ぼし兩名のドクロに金箔を塗り、杯にして酒を飲んだと伝えられています。

### 中国医学から見た「糖尿病」

「消渴病」といい、中国では紀元前1世紀頃に書かれた『史記』に糖尿病が登場する。「消には消瘦・消食・消水の意味があり、多飲・多食・多尿などが主な臨床的特徴」と記載されている。また、三千年前に書かれたとされる最古の医学書『黄帝内経』には「口の甘きを病む者あり。此の人は必ず甘美を食して肥えること多し。其の気は上益して(気が体を回りきらず)消渴となる」と見事に糖尿病の病症を記述している。

生涯、糖尿病の合併症である神経障害に苦しめられ、そのイライラのはけ口としての明智光秀虐め。信長が糖尿病にさえ罹っていないければ本能寺の変もなく、天下統一の夢は叶っていたと思うのは、私だけでしょうか。

### 糖尿病の神経障害チェック

- ① 手足の先がピリピリしびれ、痛いことがある
- ② 手足の先が冷たい(あるいは)ほてる感じがする
- ③ 足の筋肉がけいれんしたりツルことがある
- ④ 立ちくらみ、めまいをよくする
- ⑤ 便秘や下痢など便通に異常が多い
- ⑥ 排尿に時間がかかり、尿に勢いが無い
- ⑦ 一日に何度もトイレにいきたくなる
- ⑧ 性欲がなくなった

(糖尿病は適正なカロリー摂取、適度な運動で撃退できます。合併症が出る前に糖尿病を予防しましょう!)